

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳

実施場所： 全国過疎問題シンポジウム
一枚の葉っぱから生まれた幸せ
～居場所と出番づくり～ 横石知二

実施日： 平成 28 年 10 月 13 日

■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

上勝町は徳島県の内陸部にあり、人口 1,700 人足らずの、過疎高齢化の進む町である。昭和 50 年代に主な産業であったみかんは、輸入自由化により苦戦したうえ、昭和 56 年の寒波により樹木が枯死する破滅的な被害を受けた。

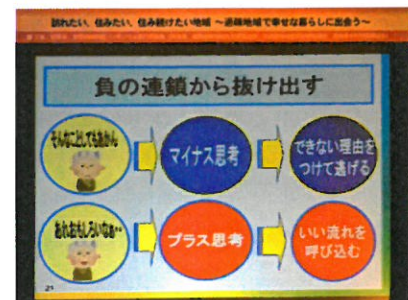
そこで、当時、上勝町農業協同組合の営農指導員であった横石知二さんの発案により、山間部で採取した葉っぱや花を、つまとして出荷し始めた。しかし、具体的な使途も把握しないまま市場に出していたため、到底みかんの代わりとなる産業になり得なかった。そこで、横石さんは、自費で京都や大阪の料亭に通い、つまに関する勉強を行った。一流料亭はかなり高額で、多く経験をする事が出来ないため、料亭の裏にあった廃棄物の中を覗いていた。それを見つかり、料亭のノウハウを盗む行為で逆鱗に触れ大けがをするも、諦めなかった。奥さんに了解を得て給与の全てを費やし料亭に通い、正確な用途とニーズを把握したことで、事業を軌道に乗せることに成功した。全国の市場を周り、上勝町のつまは今日の地位を確保した。

横石さんは営農指導員から町職員になり、株式会社いろどりに移り現在にいたっているが、いろどりが直接販売しているわけではなく、毎日需要予測を生産者に提供し、生産者はその情報に基づいて出荷計画を立て、農協に出荷している。現在年間の売上は 2 億 6,000 万円になり、多くの高齢者が 1,000 万円以上売り上げるまでになっている。葉っぱの注文は、生産者に情報提供され、早いもの勝ちで出荷が決まるシステムで、高齢者は、タブレットやパソコンを使用している。



起業がどんどん増える			
業種	得意店/店舗数	売上総額(万円)	従業員数
飲食店	100	1000	100
小売店	50	500	50
サービス業	30	300	30
製造業	20	200	20
建設業	10	100	10
運輸業	5	50	5
不動産業	3	30	3
金融業	2	20	2
情報業	1	10	1
その他	1	10	1
合計	20社	2000	200

現在20社 → あと5年で50社を目指す



■ 参考とすべき事項

地域資源を活かした起業

■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

少し観点を変える事で、産業を起業する事は出来る。負の連鎖から抜け出せないのは、出来ない理由を考えているのでは。いいな、面白いな、と思うことからプラス思考になり、良い流れを呼び込む事が出来る。全国の事例を学ぶことは重要である。職員の派遣が必要である。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：大志の会

報告者：赤木忠徳

実施場所： 全国過疎問題シンポジウム
 曾爾村分科会 田舎は宝の山だ
 ～地域資源を活かした起業を考える～
 現地視察 曾爾高原・曾爾高原ファームガーデン

実施日： 平成 28 年 10 月 14 日

■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

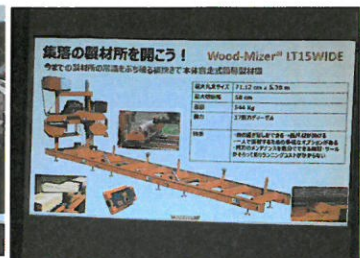
京都府南丹市美山町の美山里山舎、小関康嗣氏の極小規模木質資源フル活用モデルは、目からウロコであった。初期投資を抑えて林道・路網をつくる。集材運搬に至るまで、小資本で運営出来るシステムを構築している。しかも、山に間伐材を利用してストックヤードを設置し、現地で移動式製材機にて製材する。需要と供給のバランスを図りながら経営をする事は重要である。さらに、長尺材も 12m まで現地で製材出来、6m の長尺材になると 4m に比べて 2.71 倍に価格が上がる事も注目であった。端材から薪を作るにも高機能薪割機を使用し生産性を上げているし、トラクターの回転を利用しチップやペレットを端材から作り出す知恵も大いに参考になった。木材をいかにお金に変えていくか、という意欲は素晴らしい。

空き家コンシェルジュの、奈良県の空き家をいかに利用するかについてのシミュレーションが、具体的で素晴らしかった。家賃を決める基準は、家財道具処理費用+固定資産税+火災保険を割り出し決定する。明確にシミュレーションするため、家主も、借り主も検討しやすい。



長尺材のススメ
 スイッチハックが可能にする長尺材の生産と販売

長さ (幅45mm以内)	材 種	立木単価	倍率
4m	0	¥64,800	1
5m	1	¥66,467	1.03
6m	2	¥175,811	2.71
7m	3	¥207,637	3.20
8m	4	¥231,467	3.57
9m	5	¥248,900	3.84
10m	6	¥264,800	4.08
11m	7	¥276,921	4.27
12m	8	¥287,022	4.42



■ 参考とすべき事項

空き家を利用して、店舗として活性化に寄与している。

■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

空き家を利用しようとする意欲は素晴らしい。しかも、低家賃で貸出する方法は、初期投資を抑えることが出来、移住者にとっても決断し易い環境作りとも言える。大いに参考にすべきである。色々な事例も現地に直接行って、学ぶ事が重要である。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 28 年 10 月 20 日

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： 大志の会

報告者： 門脇俊照

実施場所：奈良県橿原市	実施日：10月13日～14日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 本市の大きな課題でもある、少子、過疎、高齢化にブレーキをかける、有効対策のヒントを模索するために「全国過疎問題シンポジウム 2016 in なら」に参加研修しました。	
参考とすべき事項 主催者は総務省所管、全国過疎地域自立促進連盟。 基調講演で、徳島県上勝町の横石知二さんから「一枚の葉っぱから生まれた幸せ～居場所と出番づくり」を聞きました。 7年前、上勝町を視察し研修していたので、より理解すると共に以前よりまして、一枚の葉っぱが町おこし、起業、事業として定着していることに羨ましく拝聴しました。 パネルディスカッションでは「訪れたい、住みたい、住み続けたい地域、過疎地域で幸せな暮らしに出逢う」についてパネリストより討論。 交流会では、過疎地域の人口減少や少子高齢化など日本全国過疎地域の、さまざまな取り組みに触れ議論を深めると共に、参加者相互の交流を深めことができました。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 2 日目は、会場を曽爾村に移動し、パネルディスカッション「田舎は宝の山だ、地域資源を活かした企業を考える」で討論、意見交換。 現地視察は、ススキの原で年間 60 万人が訪れる曽爾高原、ファームガーデンやお亀の湯を運営する曽爾ファームガーデンを視察研修。 過疎で悩む地域の成功例を聞くなど、現地視察を行い本市との違い、これからの取り組みを考えるシンポジウムでした。 成功している事業、地域には熱い思いを持ったリーダーが存在している。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。